

人文書・歴史書 ご担当者 様

有志舎の新刊です。2024年11月下旬刊行

# 明治日本と朝鮮

—征韓論・脱亜論から韓国併合へ—

吉野 誠 著

A5判・ハードカバー・280ページ 本体価格 6,800円

征韓論・脱亜論など明治期の朝鮮をめぐる言説をあとづけ、近代日本人のアジア認識について考える。

(目次)

まえがき

第一章 維新の理念と「征韓」——明治初期の日朝関係と征韓論

第二章 朝貢関係と万国公法——井上毅の琉球・朝鮮政策論

第三章 「脱亜論」の前後——福沢諭吉の朝鮮論

第四章 民権革命と朝鮮侵攻計画——大阪事件における朝鮮

第五章 東アジア「連帯」の内実——『大東合邦論』の朝鮮観

第六章 日清戦争と東アジア世界の解体

第七章 日本人による朝鮮王妃の虐殺——閔妃殺害事件

第八章 朝鮮で詠む「志士」の歌——与謝野鉄幹の朝鮮体験

第九章 日露戦争と朝鮮の植民地化——日本における「韓国併合」史の研究

第一〇章 「日本人の朝鮮観」をめぐって——戦後日本の朝鮮史研究

〈著者紹介〉吉野 誠 (よしの まこと) : 東海大学名誉教授

～版元から～ 近代日本における明治期とは、征韓論の昂揚にはじまり、朝鮮への進出を目的とした日清・日露戦争をへて、韓国併合で幕を閉じた時代となります。中国を中心とする伝統的な国際秩序が、西欧に起源する資本主義の世界体制に組み込まれ解体されていく過程にあって、「文明開化」「脱亜入欧」の日本は東アジアの内部からそれを食い破るべくふるまい、朝鮮侵略をすすめました。そのなかで、どのような議論が展開されたのか。西郷隆盛はじめ福沢諭吉、大井憲太郎、樽井藤吉、井上毅から与謝野鉄幹らにいたるさまざまな朝鮮論を検討し、近代日本人のアジア認識について考えます。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	明治日本と朝鮮 —征韓論・脱亜論から韓国併合へ— 吉野 誠 著	日本史（近代） 朝鮮史（近代）
	ご担当	A5判・ハードカバー、280ページ 本体価格 6,800円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN 978-4-908672-79-8 C3021	

ご注文は (株) JRC へ

FAX : 03-3294-2177

電話 : 03-5283-2230

返品条件付注文です。